

「ウィルあいち交流ネット」(以下交流ネット)は公益財団法人あいち男女共同参画財団(以下財団)が開催するセミナーの受講生グループによって立ち上げられました。以来、愛知県女性総合センター(ウィルあいち)を拠点にさまざまな活動を続けています。二十二年目を迎える二〇二二年度、会長の金森淑英さん(ヘリーズ18)、副会長の佐野裕香子さん(Ferri09)に交流ネットにまつわるこれまでのこと、いま、そしてこれからのことをお聞きしました。

——まず、ご経歴を教えてください。

金森 私は、大学卒業後に男女雇用機会均等法⁽¹⁾の一期生として働き始めました。しかし、出産を機に、うちの会社ではそういう前例がないからということで辞めることになりました。会社には一応、再雇用制度があったので、それを利用する気満々で、子育て期間中に消費生活アドバイザーの資格を取りました。……なんですけど、結局夫の転勤も重なり、名古屋に来て関東に戻らないことが明白になりました。下の子どもが二年生のときに算数の教室を開いて二十数年、今も継続しています。



金森氏

男女共同参画に関しては、男女共同参画基本法が施行された二〇〇〇年、名古屋市に立ち上げられた男女共同参画懇話会に小学校のPTAの代表として参加したのがきっかけです。その後、条例の策定委員会に入ることになり、二〇〇六年に財団の人材育成セミナー⁽²⁾に参加して現在に至っています。

佐野 当時は結婚退職・出産退職が普通で、私は寿退社的に仕事を辞めました。働き続けるという女性は学校の先生ぐらいでしたね。結婚して三十年ぐらいほとんど専業主婦だったので、地元の飛島村で学校の教育委員などをやったり、おはなしクラブに携わったり。二年前からは、役場からの声掛けで人権擁護委員を務め、電話相談を受け



佐野氏

たりしています。

——交流ネットにご参加されてから、どのような移り変わりがあったでしょうか。印象に残っていることなどありますか。

金森 例えば、私が参加した頃はウィルあいちには指定管理者が入っていなかったのですが、ウィルあいちフェスタは⁽³⁾全館挙げて開催し

2021年度 会長・副会長 インタビュー ネットワークのいま、これから

ていました。交流サロンの椅子を全部片付け、演台を運び出してきて、緋毛氈を掛け、津軽三味線の演奏してもらったこともありました。交流ネットは自分たちの企画のほか、フェスタ自体の担当係がいて、本当にフェスティバル！指定管理者制度が導入されてからは、財団主催は変わりませんが、フェスタで使える場所が限られ、多岐にわたっていた参加団体が年々減って、雰囲気もちよと変わったかかと思えます。

佐野 私はその頃のウィルあいちフェスタは知らないですね。交流ネットやウィルあいちフェスタなどに参加してみて、世の中にはこんなにいるんなことをやっている人がいるんだなというのが強く印象に残りました。お会いする方たちの中には、自治体に働き掛けている人もいるし、いろんなことを立ち上げている人もいます。みんなすごいパワーだな、私も参加しているかなきやいけないのかなという気になりました。

自分の年代だと、子どもが小さいうちは子育てに専念している人が多かったんですけど、だんだんとさまざまな活動もしている若いお母さんたちが増えてきたなと感じています。子どもだけにとらわれなくて自分の生き方を考える機会になるので、すごくいいことだなと思えます。

——そういう若い方たちとの温度差、いわゆるジェネレーションギャップは感じますか。

金森 人材育成セミナー自体が、始まりの頃は女性をエンパワーメントするのが目的でした。今はエンパワーメントしつつ、さらにその方たちに男女共同参画の視点、こういうことがあり、こういう法律があつてと、そのバックグラウンドを知ってもらう場へと変化しているのではないかと思います。それから私たちのときは個人で研究レポートを書きました。今はグループでの作成になっていますよね。それによって、個人個人の間がさらに深まるというか、当時にはなかった関係が育成されてきているという印象です。

私たちの世代ぐらいたと、働きたいと思ったときに、子育てに對する手当てがありませんでした。今は経済環境や社会環境もあって、共働きが当たり前。働きたいという人をバックアップしていくのと、当たり前のことをバックアップしていくのでは随分とそここの視点は変わるなと思えます。

佐野 年代で全てを分けることはいけないのですが、私たちの年代には当たり前のことが、そうではなくなってきたこともあります。私が十五年以上続けているスポーツで、新しい若い方たちに入ってもらって輪を広げていくとしたときは、こうでなくっちゃとか、こうすべきと頑にならず、そういうやり方、考え方もあるんだなあと柔軟に受け入れるようにしています。年代が違うからと壁を作らないようにしたいと思っています。

——確かに、地元の市民団体の方とお話しすると、会員の高齢化が進むなか、次の担い手がいないと、皆さん口をそろえておっしゃいます。組織やネットワークづくりのことは何でしょうか。

金森 私の所属している尾張区会の会(4)の話ですが、若い人たちに望んできたのは「やってみなきゃ分かんないので、好きにやってみよう」ってこと。必ず経験のある役員が一緒に入ってバックアップしながら、若い人たちには、好きなように決めて、やってもらう環境を作ることが出来たらいいなと思ってきました。それぐらいかな。

佐野 私は特にネットワークづくりという点で考えたことがないんですが、例えば、役員の私たちが、こうだから、あだからって経験から言い過ぎてしまうと、嫌だな来たくないなってなってしまう。必要なことは言いますが、あんまり年寄り風を吹かさないこと、次の役員さんたちが納得すればその形にするということぐらいでしょうか。

金森 コロナ禍になって、情報って相手の読み取れる形にしないと届かないということに気付かされました。インターネットが使える人にとって、情報は自分から取りに行くものだし、また、すぐにメールで文書の添付も送ることもできる。そういう人たちと、インターネットの設備がない、もしくは技術がまったくない年代の方たち、それぞれがそれぞれに納得できる形でお知らせをしないと、同じ土俵に乗って活動することは難しいですね。そのことを去年一

年、痛感させられました。

なので、ネットワークをきちんとつくっていくときには、誰かに疎外感を与えていけない。それぞれが長く続けてこられたこと、努力されている事に対して敬意を表さなければいけません。ちょうど私たち五〇代っていうのは、あ、中間管理職。上手に参画する方たちをつないでいく役割があるのかなと思っています。

——ネットワークづくりには情報の伝え方、目から鱗です！

佐野 例えば、うちによく電気の使用料金が安くなりますよっていうセルシスの電話がかかってくるんです。すると、娘から「お母さん、いまどき、そんな話は人から聞いてじゃなくて、自分で情報を取らんか」と言われて(笑)。確かに、もうちょっと上の世代になると「わしはできんで、まあ、ええわ」と言われる。どういふふうの情報伝えるのがいいのかは、コロナワクチン予約のごたごた一つ取ってもそうだと思うんです。金森さんの言われたことはごもっとも、考えさせられるなと思いました。

——やはり、今後活動していく上で、コロナの問題は避けて通れないのではと思います。交流ネットの今年度のテーマも、「新型コロナウイルス感染症下における女性の諸問題」となりました。その中で、ご関心を抱いていらっしゃるご意見ありますか。

金森 一番は女性の自殺率がものすごく増えたことです。命を落とすほど思い詰めてしまうのには、表向き、言葉で羅列してみ

れば分かりやすい原因が挙がるでしょう。でも、この裏に潜むものをちゃんと考えていかなければいけないと思っています。

それと、コロナ禍における親子間の話、お母さんと子どもとの問題ですね。私は小学校でも活動しています。子どもたちはマスクや手洗い、手指消毒は一年もすれば身に付いて、一見、普通に生活をしています。けれども、実は、いろんなストレスを抱えているのではないかと思います。心身ともに年齢相応の発達がなされない可能性もあります。お母さんたちもコロナ下の制限の下で抱えていることがあるでしょう。それぞれのストレスがどんな形で今後現れてくるのかとても怖いんです。そのときに何ができるか準備をしていく必要があるのではないかと、と日々思わされています。

——最後に、人材育成セミナーの修了生や男女共同参画に携わっているかたがたにメッセージをお願いします。

佐野 セミナーや勉強会に参加して、男女共同参画って幅が広過ぎて、どこをどう一生懸命見ていったらいいのかなって、実際、私は迷ってしまったんですね。何にでも通じるんですけど、どこをどう捉えて、自分は何をしていくのかと考え、していったらいいことを極めていくのはとても大切です。同時に、そのことだけに目を向けて、偏り過ぎてしまつものもどうかと思ったりもします。いろんな人を認めていけるような、いろんなことがあっていいんだということをや、深く思い、考えられる学びであってほしい、そう願っています。

金森 佐野さんと全く同じことになりましたが、私は逆の視点から。佐野さんは、自分たちのことがあって、周りを見回して、つながりをつくり、広がってほしいっていうことですよ。私は、セミナーに参加することによって、全体の中で自分の立ち位置がどこなのかっていうのを考えてみてください。さうして伝えたいです。いろんな世界があつて、その中で今、自分がやっていることがどこにつながつて、どういう役割を持っているのか外側から見ると視点をぜひ養ってほしいなと思っています。

——ネットワークの構築には、携わる個人が大きな役割を果たしているんだなと改めて実感しました。体験談もたくさんお話しくださりありがとうございました。

(二〇二二年五月二十八日 Zoomにて)

注釈

- (1)1985年成立、86年施行。募集・採用、配置・昇進についての均等な取扱いについては、事業主の努力義務とされた。
- (2)1996年から、政策や方針決定の場へ女性の積極的登用を推進するための人材育成を目的に実施されている。
- (3)男女共同参画に関する情報交換や交流を促進し、女性団体等の活動のさらなる活性化を図るため毎年開催されている。県下の女性団体・グループによるイベントの開催や、活動発表など様々な企画が並ぶ。
- (4)尾張地区において、男女共同参画を軸に社会参画、地域発展を目的とした啓発活動やサポートを行っている。

1. お仕事やソーシャルな活動などの経歴
2. 男女共同参画活動に関わったきっかけ
3. 今までに、女性であるということによって困ったこと
4. いま関心があるテーマ

5. 新型コロナウイルス感染症によって変化したこと
6. 自分にとっての「豊かな人生」とは
7. 人材育成セミナー修了生の皆さんにメッセージ

Step07

やまだ かずえ
山田 和枝

監事



1. 1985年頃より25年間個人医院受付、それと並行して小学校PTAを通して知り合った仲間グループ結を結成。家庭科の男女共修を考える会、東京文京区若山春菜ちゃん事件を考える会“春風”に参加。名古屋市長選挙の公開討論会への立ち上げに参加し、その後市政ウォッチング“なごや女性の会”に参加。朝鮮通信使の先導役であった雨森芳洲の出身地が母の実家である滋賀県の長浜であったことから、朝鮮半島と日本の関係を考える機会となった。在日の方々との交流を通していろいろと学ばせていただいた。

2. 昔、男は技術科、女は家庭科であった。女性差別撤廃条約の批准を受け、共通の教科書とすることになった。家庭科の男女共修を考える会から新教科書の内容を報告するよう求められた。教科書の内容を見て愕然とした。国と私の関係が見えたことが大きなきっかけとなった。

3. 東区民生協議会の運営が女性の人権をないがしろにして進められていること。こうした席で民生委員から何の意見の具申がないことも問題だと思いますが、少しずつ気長に発信していきたいと考えています。

4. 現在、子ども庁の新設などと言っていますが、男女平等社会の遅れがこうした事態を引き起こしているのではないのでしょうか。
5. コロナの感染拡大によりリモートワークやオンライン授業、それにワクチン接種の申し込みをインターネットに限ることなどネット社会が急速に進みましたが、それについていけない私や多くの高齢者は見捨てられた感を抱かざるを得ません。男女格差に加え、デジタル格差の解消もこれからの課題であると思います。
6. 人間が本来持っている当たり前の生活感が代々引き継がれていくことができる社会。日本人は皆、農民党だと思えます。お天道様を拝んで日々があると思えます。そしてそうした市民を支えることのできる政治風土があること。
7. 今、多くの女性たちは孤独で行き場のない暮らしを抱え生きています。こうして交流ネットで集う皆様お一人お一人こそが、そうした女性たちを扇の要となって支えることのできる人々ではないのでしょうか。自分自身を信じて1歩前に進んでください。

カクラカクラ '16

のむら あやこ
野村 文子

書記

1. フェイシャルのエステをちょっとだけ。所属団体での活動は特になし。
2. 平成27年にとよた男女共同参画センター主催「クローバーカレッジ 女性力向上計画」という人材育成講座を受講したこと。
3. 固定的役割分担の概念に疑問を感じない義母や実母に、現代社会では女性の社会進出や家事分担は必要だと分かって欲しかった。
4. 更年期。記憶力、体力、気力、全てが低下してきたので、その対処法(^^;;
5. 人との接触が減り、直接会ってするコミュニケーションが少なくなったので、これが当たり前の世の中になっていくのかなと思うと寂しさを感じる。仕事も少し影響あり。
6. 一生何かを学び続けて、夢中になっている人生。
7. 恐れ多くて、メッセージを言える立場ではありません(苦笑)。メッセージでは無いのですが、男女だけでなく、すべてのカテゴリーの人が差別されずに、当たり前で社会で生活するには何が出来るかを考えながら、これからも学びを深めていきたいと思っています。



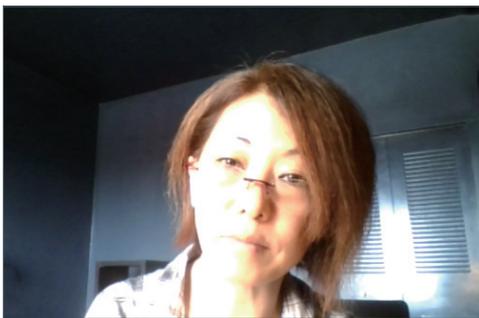
- 現在：専業主婦 / 民生主任児童委員 / 一宮市 & 連区児童育成会 / 赤十字奉仕団分団長
三岸節子記念美術館運営協議会 / 学校運営協議会 / 地域づくり協議会 / 公民館家庭学習部
子育て支援お手伝い / 中学校サポーター / 高校 PTA 役員 / 登校 & 下校見守り隊
小学校 & 中学校読み聞かせ / 尾張えみの会 / 一宮市ともに 138
過去：幼稚園 PTA 会長 / 小学校 & 中学校 PTA 母親代表
一宮市小中学校 PTA 連絡協議会母親代表会会長
- 一宮市市役所の生涯学習課の方からお声が掛かった事が、きっかけです。総合政策部政策課の方から人材育成セミナーのお話を聞き、男女共同参画の活動に関わる事になりました。
- 女性である事で、困った事など…特にはないですが…。ちょっと質問の回答には、違うんですが…。私には、長男・次男・長女、3人の子供がいます。「男の子だから、大変!」「お兄ちゃん2人の女の子だから、男っぽい女の子でしょ〜!」とか…。我が子の事を知らないのに、そんな風に言う人がいます。男の子だから、女の子だから…なんて…関係ないですよね? 性別で判断しないでほしいです。
- 当たり前のように、出来ていた事が、コロナウィルスが出現したことで。生活が変わってしまい…。以前の生活に戻れるのかなあ〜。
- 家族で外食する事がなくなり、お家で飯が増えました。
小学生、中学生、高校生は、普通に学校に行き、学び、気を付けながら出来る行事 & 活動していますが。大学2年生の長男は、ほぼリモート授業。対面授業は、数回。いくら、単位を取得しても中身がないような。本来の楽しい大学生生活とは、かけ離れているような。
- 住むところがあって、生活をしていくうえで、お金の困らず、人に迷惑かける事なく、健康でいたい。近所の人や、お友達、家族と、何気ない事を、わちゃわちゃと話すのもいいなあ〜。おはよう、で始まり、挨拶はいいですね。そして、感謝の気持ちは大事にしたいです。
- 人材育成セミナーに関わった事で、事務局の方々をはじめ、たくさんの方と出逢い、本当にみなさん良い方ばかりで感謝します。私自身、関わるなら、楽しみたいです。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



Reiwa '19

ま
せ
ゆうこ
間瀬 結子

書記



- 会社員。地域開発みちの会 会員。
- 地元大府市の男女共同参画関係施策に市民側として参加したこと。
- 20代から40代までは、女性が「普通に」暮らしていくことを選択肢が少なく、もやもやしていた。50代になった今は気楽に生きています。
- 近世 "女流" 文学史。尊敬する研究者は門玲子氏♡
- 終末期医療施設にいた母とは、感染予防のため息を引き取る直前まで会うことが叶いませんでした。改めていろんな人やものとの距離について考えています。
- 自分から一番遠い人の人生も推し量れるような人生。
- 何かありましたら声掛けてください。一緒にやりましょう!

▼ウィルあいち交流ネット参加グループ

さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学 '98 の会 / グループキーツ / ウィル 2000 / I.W.I. / ウィル Do 2002
サーティネット '05 / ベリーズ 18 / Step S07 / Fem.'09 / Amelie '10 / ひかるよ '15 / カクラカクラ '16
そだね! 2017 / Hey Say Final / Reiwa '19 / みつ 2020

編集発行 ウィルあいち交流ネット
協力 (公財) あいち男女共同参画財団
2021年6月30日発行

ウィルあいち交流ネットとは：
ウィルあいちセミナー等の受講修了生による
自主活動グループで組織された団体です。